全国研広報チームニュース
2026.10.31 発行

第61回 全国学童保育研究集会in山形

いよいよ、本日開催です！

速報値　10月15日時点での参加申し込み人数

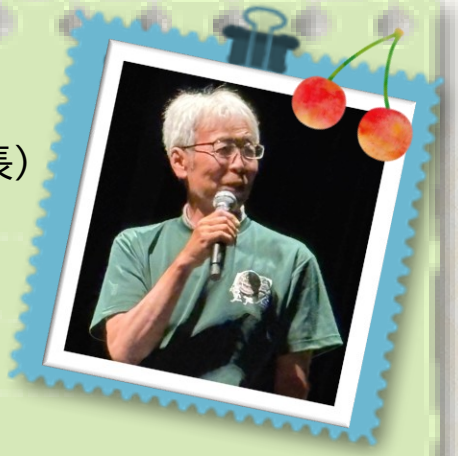
全国から 4668人



参加申し込みに向けて、地域での活発なお声がけに
ご協力いただきありがとうございました！

ようこそ山形の地へ ～感激そして感謝へ～

元木朗博（山形県学童保育連絡協議会 会長）



東には蒼き蔵王嶺（ざおうね）、西には霊峰・出羽三山（でわさんざん）を有し、県中央には大河・最上川を配するここ、山形県にようこそおいでくださいました。心より歓迎を申し上げます。まず、全国すべての都道府県より参加申し込みをいただきましたことは、感激の極みであり、感謝の念に堪えません。当地に赴いてくださった方々には存分に、山形を堪能していただければと思います。

前述した出羽三山は、それぞれ「現在」「過去」「未来」をつかさどる山と言われており、「明日の自分にあえる場所」とも言われています。全国研も第61回を数え、人に例えるなら還暦を過ぎ、人生の新たな一歩を踏み出す時期にあたります。山形での全国研もそうありたいと願っています。これまで培ってきたものを礎に、新たなものを構築していく――開催地が地方都市であっても、いいえ、地方都市だからこその〝しつらえ〟ができるのではないでしょうか。笑顔で再会をよろこびあい、来たとき以上の笑顔でつぎの再会を誓いあう。そんな全国研が、今後もつづいていくことを望んでいます。

最後に、地元・山形の言葉で皆様をお迎えします。

「よぐござてけだなっす あがらっしゃい！」



Yamagata

オススメ観光

●立石寺（山寺）：松尾芭蕉の名句「閑さや岩にしみ入る蝉の声」が詠まれた地として有名な立石寺。山門から奥の院まで1015段の石段が連なります。奥の院の手前にある五大堂から見わたす山々と田園風景は絶景です。



宝珠山立石寺（山寺）



●温泉：山形は温泉大国。県内の35市町村すべてに温泉があります。開湯1900年、日本屈指の古湯「蔵王温泉」をはじめ、気軽に入れる「日帰り温泉」や「足湯」まで、さまざまなタイプが。全国研の後、ゆっくり温泉につかるのもいいですね。



●『文翔館』：山形市内にある「山形県郷土館」です。1916年に建てられた大正ロマンの薫りあふれる英国近世復興様式の建物で、1975年まで山形県庁舎、県会議事堂として使われていました。シンボルである時計台は、現在日本で稼働しているなかでは、「札幌の時計台」についで2番目に古いものです。入場料が無料なのもうれしいポイント。



山形県郷土館 「文翔館」

●『霞城公園』：国の指定史跡となっている「山形城址」を復元した都市公園で、山形駅から近く、全国研の全体会・分科会の各会場からも徒歩圏内にあります。公園内には、山形城主・最上義光の騎馬像や、山形市郷土館、山形県立博物館などがあります。ぜひ、山形の歴史にふれてみてください。

オススメグルメ



●そば・ラーメン：山形は「そば処」です。太目でコシの強いそばは、県内のあちらこちらで食べられます。「板そば」は、板のような木箱に盛りつけられたそばを大勢で囲んで食べるスタイルが特徴です。もう一つ、ぜひ味わってほしいのが「冷たい肉そば」。親鶏からダシをとった甘じょっぱいつゆと、親鶏のコリコリとした歯ごたえのチャーシューが乗った絶品のそばです。

そして山形といえば、「ラーメン年間消費額　全国1位」であることも有名です。山形のラーメンは、ラーメン店はもちろん蕎麦屋でもメニューにあることが多いですし、家庭でも来客時にラーメンの出前でもてなすことがあります。「酒田ラーメン：ワンタンがおいしい」「米沢ラーメン：あっさりしょうゆ味」「天童の鳥中華：そばつゆベースのスープと天かすがベストマッチ」「南陽市赤湯のから味噌ラーメン」など、お気に入りの一杯を見つけてみてください。



●芋煮：山形の秋の風物詩といえばなんといっても「芋煮会」。里芋、牛肉、こんにゃく、ねぎなどを煮込んだ大きな鍋を、家族や友人と囲む姿が、あちらこちらの河原などで見られます。味つけは、内陸部ではしょうゆ味、庄内はみそ味の豚肉鍋を楽しむことが多いようです。これから冬にかけて、心も体も温まる郷土料理です。



●酒：米どころであり、美味しい水がある山形には、銘酒がそろっています。日本酒だけでなく、ぶどう栽培が盛んな県内にはワイナリーが多くあって、美味しいワインもいただけます。山形駅に直結した施設「霞城セントラル」の1階、「山形観光情報センター」内には、「やまがた酒巡り Chetto」という試飲コーナーがあり、500円でお好きな3ショット、1000円で6ショットの試飲をすることができます。品揃えは、日本酒30種類、ワイン12種類です。



●フルーツ：山形は〝フルーツ王国〟。秋は、ラ・フランス、ぶどう、庄内柿などが店頭に豊富に並びます。収穫量全国1位のラ・フランスは、追熟して軸のまわりにシワが寄ってきて柔らかくなったら食べ頃。香り高くなめらかな果肉が格別の美味しさです。ぶどうは、シャインマスカットはもちろん、ピオーネもおすすめ。大粒で種がなく、食べごたえあるぶどうです。



●肉料理：「米沢牛」は、皆さんもよくご存じのブランド牛。山形駅の近くにも、ステーキやすき焼き、炭火焼きを味わえるお店があります。また、山形のおいしいお肉は牛肉だけではありません。山形駅構内にも「三元豚」が食べられるお店があり、お弁当やお土産の購入もできます。また、意外なグルメとしておすすめなのが「ジンギスカン」。とくに蔵王の温泉街には、多くのお店があります。



第61回全国研in山形
スタッフTシャツのご紹介♪







会場や街頭で山形のスタッフは、あざやかなブルーのTシャツを着て皆さんをお迎えします。ブルー（青）は、山形県の県旗の色です。背中面は、第55回全国研の際に制作した柄をそのまま採用し、胸の部分には、今回の全国研ポスターにも使用されている、手をつなぐ8人の子どもたちが描かれています。そして先頭の子どもが持つ旗には「2026がくどう　55～61ぜんこくけん」と記しました。

2020年、約2年をかけて準備していたものの、コロナ禍によりやむなく中止になった第55回全国研in山形。そこからつないできた〝思い〟を、今回の集会のTシャツに込めました。
ブルーのTシャツを着たスタッフが、参加者の皆さんをサポートします。

みんなで集い、大いに学びあいましょう

全国学童保育連絡協議会・会長　**戸塚丈夫**



第55回全国研は2020年に山形県で開催される予定でしたが、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響により、残念ながら中止せざるを得ませんでした。あれから6年を経た2026年、山形県にて第61回全国研を開催することになりました。毎年、多くの方にご参加いただき、大いに盛りあがる全国研。とくに山形の学童保育関係者の皆さんの開催への思いは強く、熱気あふれる集会になることでしょう。少子化が進む一方で、学童保育の利用者数は年々増えています。待機児童の解消は大切な課題ですが、同時に、保育の質の低下は必ず避けなければなりません。子どもたちが安全に過ごすことができ、保護者が安心して子どもを託せる学童保育を維持・継続するためには、専門的な知識を持つ指導員が安定して継続的に働ける職場づくりが不可欠です。

いま、どのようなことが課題なのか。自分たちはどのような立場にあるのか。専門的な知識はもとより各地の困りごとも含めて皆で学びあい、情報共有することで、新たな発見や気づきが生まれます。そこから、いまなにをすべきかも見えてくるはずです。　皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



＜特設HP＞　＜リーフレット＞　＜Facebook＞　＜Instagram＞

全国学童保育研究集会　開催地・記念講演・講師一覧

回数	開催地	年	参加者数	記念講演タイトル ● 記念講演者
第1回	東京	1964	30	● 金沢嘉市（教育評論家）
第2回	東京	1967	106	子どもとその未来　小松福三（和光学園幼児部）
第3回	東京	1968	126	学童保育における生活指導　● 城丸章夫（千葉大学）
第4回	東京	1969	285	学童保育の未来像――役割とあるべき姿を探る　● 宍戸健夫（愛知大学）
第5回	愛知	1970	450	70年代における学童保育の役割と制度化の方向　● 浦辺 史（日本福祉大学）
第6回	東京	1971	700	シンポジウム「子どもにとって学童保育とはなにか」　● シンポジウム
第7回	京都	1972	900	子どもの発達と学童保育　● 田中昌人（京都大学）
第8回	東京	1973	990	日本の大人と子ども　● 早乙女勝元（作家）
第9回	大阪	1974	1400	どういう子どもを育てるか　● 丸木政臣（和光学園）
第10回	東京	1975	1700	どぶ川学級の実践を通して　● 須長茂夫（作家）
第11回	奈良	1976	1300	子どもと、遊びのたしかめなおしを　● 北川幸比古（児童文学者）
第12回	愛知 盛岡会場	1977	1600 600	幼児期から学童期へ――こころとからだの発達　● 近藤薫樹（日本福祉大学）　6月4日、5日開催
第13回	埼玉	1978	2000	共働きと子育て　● 永畑道子（作家）
第14回	京都	1979	3000	子どものからだと心の現状　● 正木健雄（日本体育大学）
第15回	神奈川	1980	4000	成長する親たちだけが子どもたちを成長させることができる　● 藤岡貞彦（一橋大学）
第16回	三重	1981	3000	子どもの心に人生の節をみる――学童期の思い　● 秋葉英則（大阪教育大学）
第17回	東京	1982	4642	人間の教育を求めて　● 大田 堯（都留文科大学）
第18回	大阪	1983	3391	街づくりと学童保育――平和と自治をもとめて　● 宮本憲一（大阪市立大学）
第19回	岐阜	1984	3100	国民のための教育をめざす私たちの子育て――「健全育成」政策と学童保育の課題　● 高浜介二（大阪教育大学）
第20回	埼玉	1985	5221	20回記念で3人から　● 山家和子・鷲谷善教・大塚達男
第21回	兵庫	1986	4346	地上にいっぱい鉄腕アトムを　● 木津川 計（立命館大学）
第22回	愛知	1987	4590	かがやけ子どもたち――発達・地域・平和　● 川合 章（中京大学）
第23回	千葉	1988	4737	働くこと、育てること、生きること　● 二宮厚美（大阪外国語大学）
第24回	広島	1989	3749	暮らしの視点――こだわりつつしなやかに　● 寿岳章子（国語学者）
第25回	神奈川	1990	5340	子どもたちの今日と明日――子どもの権利と大人の責任　● 牧 柾名（教育学者）
第26回	京都	1991	4711	子ども発達と社会の課題　● 山住正己（東京都立大学）
第27回	東京	1992	5146	子ども発見とかかわり合うことの大切さを　● 津田八洲男（青森・小学校教諭）
第28回	大阪	1993	5416	ヒトが人になるとは――これからの子育てを考える　● 大田 堯（日本子どもを守る会会長）
第29回	埼玉	1994	5754	自立をはぐくむ愛のちから――「子どもの権利条約」時代とわたしたち　● 尾木直樹（民主教育研究所）
第30回	滋賀・京都・大阪	1995	4247	子どもの未来を輝くものに――私たちの子育てと憲法　● 森 英樹（名古屋大学）
第31回	愛知	1996	4485	いま子育てを考える――「いじめ」不登校が問いかけていること　● 高垣忠一郎（立命館大学）
第32回	千葉	1997	4320	龍平とともに――母として、人間として　● 川田悦子（東京HIV訴訟原告団）
第33回	広島	1998	4247	あるがままの子どもたちからの出発　● 村山士郎（大東文化大学）
第34回	群馬	1999	3801	子どもの心の声を聴く――子育てのための新しい共同へ　● 田中孝彦（北海道大学）
第35回	兵庫	2000	4898	自分が大好き！と言える子を――子どもたちの希望を育む社会と子育て　● 汐見稔幸（東京大学）
第36回	静岡	2001	3880	子どもが安心できる人間関係を　● 茂木俊彦（東京都立大学）
第37回	京都	2002	4381	人を育てる文化　人が創る文化　● 木津川 計（立命館大学）
第38回	栃木	2003	4005	つながり・ぬくもり・あこがれ――地域・学童保育発の子育て論を　● 増山 均（早稲田大学）
第39回	大阪	2004	5674	子どもたちの笑顔あふれる社会に――「100人村」と「日本国憲法」から考えたこと　● 池田香代子（翻訳家）
第40回	神奈川	2005	4989	夕方の子どもたちの居場所　● 重松 清（作家）
第41回	愛知	2006	4452	語ること、聴きとられること――子どもと大人がともに生きる道　● 横湯園子（中央大学・臨床心理士）
第42回	東京	2007	4977	幸せになるための学童保育　● 松崎運之助（元・夜間中学教師）
第43回	北海道	2008	2793	希望をつむぐ子育ての絆――物語る言葉を生きる力に　● 庄井良信（北海道教育大学大学院）
第44回	滋賀	2009	4619	子どもの居場所と子育て――子ども・親・指導員のつながり方　● 春日井敏之（立命館大学）
第45回	千葉	2010	4259	子どもの育ちと親の暮らしを支える学童保育の仕事――子ども理解を深めあう新しい共同へ　● 田中孝彦（武庫川女子大学大学院）
第46回	石川	2011	3725	自然・人との豊かな関係性がはぐくむ希望　● 金森俊朗（北陸学院大学）
第47回	埼玉	2012	5798	子どもへの理解を深め、育ち合いの学童保育をめざして　● 広木克行（大阪千代田短期大学）
第48回	岡山	2013	4262	子ども叱るな来た路じゃ、年寄り笑うな往く路じゃ――学童保育はみんなの“還る家”　● 冨田富士也（教育・心理カウンセラー）
第49回	岩手	2014	4037	「いのち」をケアし、育むということ――学童保育がつむぐ未来への希望　● 庄井良信（北海道教育大学）
第50回	大阪	2015	5558	人が人のなかで生きていくということ――子どもも大人も生きやすい社会とは　● 中西新太郎（横浜市立大学名誉教授）
第51回	愛知	2016	4707	子どもの発達と大人の役割　● 田丸敏高（福山市立大学）
第52回	兵庫	2017	4030	小学生のこころのヒ・ミ・ツ　● 近藤直子（日本福祉大学名誉教授）
第53回	神奈川	2018	4588	子ども時代は二度と来ない――「子供」が「こども」でいられるための五つの権利　● 増山 均（早稲田大学名誉教授）
第54回	京都	2019	3708	働きながらの子育て――子どもが自分で育つ力を育む　● 池添 素（NPO法人福祉広場）
第55回	山形	2020		「新型コロナウイルス感染症」の影響で中止
第56回	オンライン	2021	4612	学童保育の歴史から学び、未来をひらく――前例のない課題に立ち向かう　● 石原剛志（静岡大学）
第57回	オンライン	2022	4575	紛争地、被災地に生きる子どもたち――取材から見えてきたこと　● 安田菜津紀（フォトジャーナリスト）
第58回	オンライン 東京・神奈川会場	2023	4045	どの子も受けとめる学童保育をめざして　● 丸山啓史（京都教育大学）
第59回	岡山 オンライン	2024	4829	子どもも大人も育つ学童保育――思いっきりあそび、人生の土台をつくる　● 川地亜弥子（神戸大学）
第60回	福岡 オンライン	2025	4362	子どもたちが自ら社会をつくるには――共に生きる大人が大切にしたいこと　● 松田洋介（大東文化大学）
第61回	山形 オンライン	2026		子どもの育ち・学びと遊びの可能性　● 野井真吾（日本体育大学）